



ポイヤウンペの戦い ⑤

「金成マツ版 虎杖丸」から 文：瀧口夕美 絵：小笠原小夜

きょうだい救った姫

わたし、ポイヤウンペが傷ついた体で海をただよっていた時、ランケベシ村からこんな声が聞こえてきた。「その昔、戦いが長く続いた時代、私の親族はあなたのお父さんの味方になりました。戦いの後、私の叔母はあなたの村の人と結婚し、あなたのきょうだいを産みました。勇者カムイオトプシたちです」

声は続き、私の親について語った。「きょうだいとは別に、あなただけはオオカミのカムイ(神)の妹から生まれたのです。彼女はあなたのお父さんに恋をして、シヌタツカ村に下りてきました。さあ、こちらへ来てください。私の妹があなたを治すでしょう」

しかし、きょうだいたちは猛毒男と猛毒女との戦いで死んだ。「自分だけが生き残ってどうする」と私は思い、泳ぎ去ろうとした。すると、ランケベシ人は「言うことを聞かないのか」とおこってこう続けた。「行く先のニソルスサンタには人が集まり、あなたを殺す準備をしている。その中心にいる男は能力、顔つき、器用さがカムイにも人間にも勝る。男の

妹も同様に優れている」
次に、声の主はおどろくようなことを明かした。「その妹、ニサツタスム姫は急にたおれてしまったらしい。巫女たちが見てみると、姫はあなたのきょうだいたちのたましいを追いかけて、みんな生き返らせた。彼らはいま故郷へ帰っている」

私には感謝の気持ちがわき上がった。そして、姫がいるニソルスサンタに行きたくなった。ここで引き返したら一生後悔するだろう。おや、と自分の体を見てみると、私の体はすっかり治って、着物とよろいに包まれている。

私は海から天に向かって飛び上がり、



ニソルスサンタに降り立った。立派な金の家があり、うたげの音がさわがしく聞こえた。窓の隙間から見ると、宝物がぎっしりと並んでいる。主人は立派な男で、本当の勇者らしく顔つきが凛々としている。私たちは「ポイヤウンペめ、もしここに来たら、打ち負かしてやる」と口々に言っている。

家の中の太い柱に目を向けると、若い姫がそこにしばられ、死んだように首をぐくりとたれていた。人々は大きななべに煮立った重湯を姫にぬり、痛めつけている。「おい、ニサツタスム、正直に言え。人殺しの男、ポイヤウンペをなぜかばうんだ?」。姫は声も出さない。かわいそうに。私のことが好きで、私のきょうだいを生き返らせたのだ。

私は、すぐそばに人の気配を感じた。見るとそこには、かすみももやもやと立ち上がっていた。

これまでのお話は「まなぶんデジタル」=QRコード=で読めます

